

平成 31 年度厚生労働科学研究費補助金 (長寿科学政策研究事業)
アルツハイマー病患者に対する生活行為工程分析に基づいたリハビリテーション介入の標準化に関する研究
分担研究報告書

認知症初期集中支援チーム対象者における生活行為の課題分析に向けた予備検討

分担研究者 山口智晴
群馬医療福祉大学 リハビリテーション学部 教授

研究要旨:

目的: 初期~中期のアルツハイマー型認知症(AD)の人が在宅生活の継続に向けて課題となる IADL について、世帯構成と性別による影響も踏まえて傾向を把握する。

方法: A 市認知症初期集中支援チーム対象者のうち、アルツハイマー型認知症と診断された 19 名について、支援依頼票とチーム員の会議録を調査。在宅生活の継続において課題となっている IADL 項目を確認し、世帯構成と性別による違いを検討した。

結果: 世帯別にみると独居では、金銭管理や調理、電話、買い物、服薬管理が在宅生活継続における課題にあげられることが多かった。特に、他の世帯と比して、調理や金銭管理が課題となる割合が高かった。夫婦のみ世帯では服薬管理と金銭管理、買い物、外出が課題となる割合が高く、特に服薬管理は他の世帯と比してその割合が高かった。性別による検討では、女性において調理や電話、買い物で明らかに男性と比して課題となる割合が高かった。一方で、男性は外出の中でも特に自動車運転に関するトラブルの割合が突出して高かった。

まとめ: 独居世帯では他の世帯構成と比して、リスク管理や栄養確保などの生命と生活の維持管理に重要な項目が課題となる傾向にあった。夫婦のみ世帯やその他の世帯では、同居者が調理や家事などをサポートしており、在宅生活の継続における課題とはされにくい傾向があった。一方で性別による違いでは、明らかに女性で IADL 全般に課題とされる割合が高く、特に調理や買い物、電話などは男性との差が大きかった。

A. 研究目的

アルツハイマー型認知症 (AD) の人における生活行為工程障害と残存機能の特徴については、既に平成 29 年度厚生労働科学研究費補助金「生活行為障害の分析に基づく認知症リハビリテーションの標準化に関する研究」(代表: 池田学) で田平らが報告している通り、手段的日常生活動作 (Instrumental Activities of Daily Living ; IADL) の中でも、特に金銭管理や服薬管理、家事などの自立度が早期から低下することが明らかにされ、地域在住 AD 者の各動作項目の自立度についても検討された。それら生活行為に対する具体的な介入支援の効果検証は、本研究事業で行っているところである。

一方で、認知症施策推進大綱が目指す「認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続ける」ことの実現には、単に自立度の把握という観点だけでなく、地域生活上を継続する上で課題となりやすい生活行為の把握も大切となる。なぜなら、自分で遂行することが難しい生活行為は介護保険サービスの利用や同居家族などのインフォーマルサポートで代償できる場合もあり、単に自立度の低下が在宅生活の継続困難に直結するとは限らない。認知症者の地域生活の継続には、認知症の原疾患や重症度だけでなく、その人の生活習慣や生活環境、世帯での役割など多様な因子が影響する。

そこで、A 市認知症初期集中支援チームへの支援依頼のうち、初期~中期段階の AD 者のみを対象とし、在宅生活の継続において課題となっていた IADL 項目の傾向を世帯構成と性別毎に検討した。

B. 研究方法

2019 年度中に A 市の認知症初期集中支援チームに依頼された対象者のうち、アルツハイマー型認知症の診断があり、認知症高齢者の日常生活自立度 IIa または IIb と判断された 19 名を対象とした。対象の在宅生活継続に向けた支援において、課題となっている IADL 項目を調査した。IADL は田平らの生活行為工程分析表 Process Analysis of Daily Activity for Dementia (PADA-D) に含まれる電話、買い物、調理、家事(調理と洗濯以外)、洗濯、外出、服薬管理、金銭管理の 8 項目とした。支援チームの支援依頼票とチーム員会議資料を基にして、課題として含まれている 8 項目の IADL を確認した。その際に自立度の程度は問わず、支援依頼内容やチーム員の支援内容に含まれるか否かを判断基準とした。例えば、調理は自立していないものの、同居の妻によるサポートで調理自体が課題となっていなければ「該当しない」と判断し、在宅生活継続において問題として焦点化されているか否かに基準をおいた。それら結果が、性別(男、女)や世帯構成 (単身、夫婦のみ、その他

の3分類)によりどの程度異なるかについて検討した。なお本調査では、外出の項目について土地柄を考慮してPADA-Dに含まれない自動車運転も含めた。

(倫理面への配慮)

本研究では個人情報 を消去し、すべて記号・数値に置き換え、個人が特定されない形で処理をおこなう配慮をした。また、所属機関での研究倫理審査会での承認を得た(群馬医療福祉大学, 19A-08)。

C. 研究結果

1. 世帯構成による課題となる IADL 項目の違い

IADLにおける課題について「独居世帯」では、金銭管理、調理、電話、買い物、家事の順で多かった(表1と図1を参照)。特に金銭管理は全例、調理は8割、電話と買い物は5割で課題となっている割合が高かった。一方で、寝具や生活用品の管理といった家事や洗濯などは、行為の自立はできていなくても、在宅生活支援の継続課題としてあげられる割合が低かった。

「夫婦のみ」世帯では、服薬管理と金銭管理が6割と最多で、買い物と外出が約4割、電話と調理が約2割と続いた。特に服薬管理は他の世帯構成と比して、課題としてあげられている割合が高かった。

子供と同居しているなどの「その他」世帯では、外出が6割と多く、金銭管理は4割、調理2割の順であった。他の世帯構成で課題としてあげられる事多い服薬管理や買い物、電話などの項目については該当がない点が特徴的であった。

2. 性別による課題となる IADL 項目の違い

男性では外出と金銭管理が5~6割と高く、服薬管理が約2割と次に高かった。買い物と調理、家事が該当したのは1例で独居の男性であった。男性は女性と比べ、外出と金銭管理以外の項目ではほとんど課題として検討されない傾向があった。

一方の女性では、外出を除く IADL 項目全体的に男性と比べて割合が高かった。女性は金銭管理が8割、調理が7割、服薬管理が6割、電話と買物が5割の順で割合が高く、特に調理や買い物、電話、服薬管理の項目で、男性と大差があった。

なお、男性に突出して多い外出については、全7名中5名が自動車運転に関するトラブルで、その5名全てが男性であった。具体的には、自動車運転を医師から止められていることを忘れて運転してしまう、運転免許証の返納が納得できないなどであった。他の女性2名は自動車運転に関する事項ではなく、自転車での外出で目的地を誤る場合などであった。

E. 結論

独居世帯では他の世帯構成と比して、リスク管理や摂食などの生命維持や生活管理に重要な項目が高頻度で課題となる傾向にあり、世帯構成により課題

は異なる傾向にあった。夫婦のみやその他世帯では、同居者が調理や家事などをサポートしており、在宅生活の継続に向けた課題としては上がりにくい傾向があった。一方で、性別による違いを検討すると、明らかに女性で IADL 全般に課題とされる割合が高く、特に調理や買い物、電話などは男性との差が大きかった。今回は予備的研究として、少数データで傾向を把握したのみである。今後は統計学的手法を用いて、更に多数のデータで分析する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 村山明彦, 山口智晴, 宮寺亮輔, 柴ひとみ, 田口敦彦. 『心・身・脳』維持向上プロジェクトの活動報告-大学・社会福祉協議会・参加者として作る新しい介護予防プログラム-. 理学療法群馬 30: 39-42, 2019.
- 2) 悴田敦子, 宮寺亮輔, 山口智晴. 認知機能のリハビリ・ケア. リハージュ「なるほど! 認知症のリハビリ・ケア」(QOL サービス出版部編). QOL サービス, 広島, p11-56, 2020.
- 3) 山口智晴. 在宅での認知症悪化とニーズの対応方法・連携, 在宅での困りごと・ニーズの対応方法・連携. 認知症対応力アップマニュアル(内田陽子編). 照林社, 東京, p133-144, 2020.

2. 学会発表

- 1) 山口智晴. 群馬県内における認知症初期集中支援チームの実態と課題. 第38回日本認知症学会学術集会, 東京, 11月7-9日, 2019, ポスターセッション
- 2) 宮寺亮輔, 山口智晴, 村山明彦. 介護レクリエーション支援機器コグニマスターの現場活用に向けた効果検証. 第53回日本作業療法学会, 福岡, 9月6-8日, 2019, ポスターセッション

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 各 IADL 下位項目で生活上の問題としてあげられた割合 (世帯区分)

世帯区分	人数	性別 男/女	年齢(歳)		IADL 別の問題となっている割合 (%)							
			平均	SD	電話	買い物	調理	家事	洗濯	外出	服薬管理	金銭管理
全体	19	9/10	80.7	6.8	26.3	31.5	42.1	15.8	5.3	36.8	42.1	68.4
単身	6	1/5	80.8	5.0	50.0	50.0	83.3	33.3	0.0	16.7	50.0	100.0
夫婦のみ	8	4/4	81.1	8.7	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	37.5	62.5	62.5
その他	5	4/1	79.8	6.6	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	60.0	0.0	40.0

図1 各 IADL 下位項目で生活上の問題としてあげられた割合 (世帯区分)

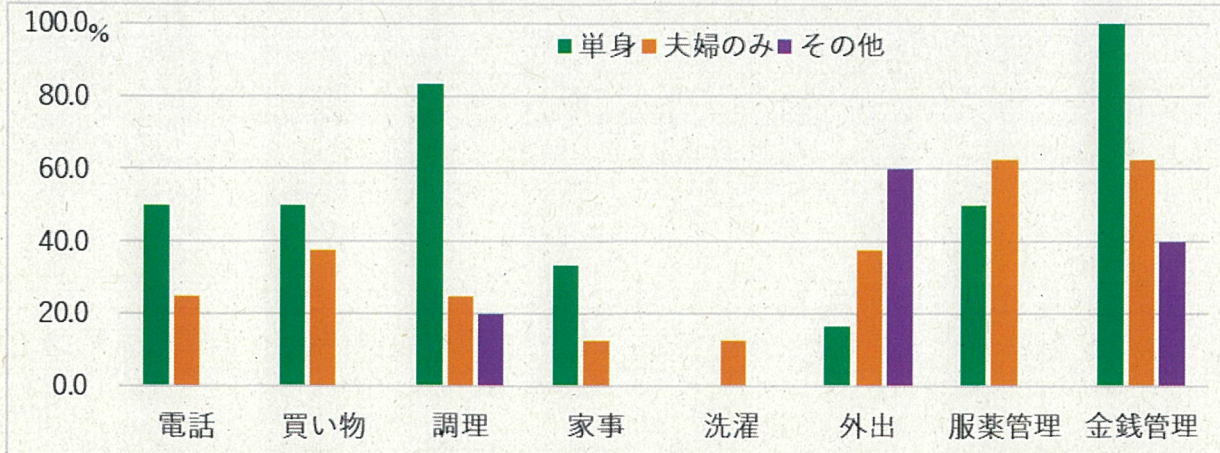


表2 各 IADL 下位項目で生活上の問題となっている割合 (性別)

性別	人数	年齢(歳)		IADL 別の問題となっている割合 (%)							
		平均	SD	電話	買い物	調理	家事	洗濯	外出	服薬管理	金銭管理
男	9	80.7	6.8	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0	55.6	22.2	55.6
女	10	80.2	7.9	50.0	50.0	70.0	20.0	10.0	20.0	60.0	80.0

図2 各 IADL 下位項目で生活上の問題としてあげられた割合 (性別)

